

不合加減奏可之云々一戸ハ三代実録を
考れむ田地よてハ六丁なり當由の農吏も
六丁の田地をハ正丁六人位よて耕を續日
中紀二十ハ是天平宝字元年条下天下百
姓成童之歳則入輕徭既冠之年使當正
役愍其勞苦用輕千懷昔者先帝亦有此
猶未施行自今以後宜以十八爲中男二
十已上成正丁云々之代実録元年三月十
五日癸未左京職言今戸令云凡戸皆五
家相保一人爲長以相檢察勿造非違云々

又亦お保といハ今世の五人組もや長といハ
ハ既なりハ一戸元亨元年の条に山城国司
除并大小口只抄六丁以爲一戸と云々大
小の口といハ未考但上戸といハ事もや同
元亨八年六月二日の条下に以近善爲戸頭
云々又戸を振とあり今の世の新賣振の如
きや丁に田數あり里數あり田數ハ方六尺
五寸爲一歩二十歩爲一畝十畝爲一段云々
十段爲一町然但古制ハ長サ二十歩廣サ十
二歩爲段十段爲町と孝徳紀より見ハより